

実装活動プロジェクト名：

ドライバーの居眠り事故防止のための睡眠時無呼吸症スクリーニングの社会実装

実装責任者：谷川 武（順天堂大学 大学院 医学系研究科公衆衛生学、教授）

実装支援期間：平成 25 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日

1. 総合評価

十分な成果が得られたと評価する。

本プロジェクトの最終目標は、日本バス協会加盟事業者に限らず、日本バス協会に加盟していない事業者にも、睡眠時無呼吸症（以下、SAS）のスクリーニングを普及させ、SAS による交通事故の防止を図ることである。実装支援期間終了時には、SAS スクリーニング推進のための情報を定期的に発信・提供し、同時に、特に日本バス協会による「SAS 対策事業」の復活に協力するために、SAS スクリーニングの評価のノウハウを日本バス協会が活用できるよう整備することを本プロジェクトの目標とした。それによって、日本バス協会が主体となり、実際の SAS スクリーニングの効果を評価し、また公表することも可能となり、SAS スクリーニングの受診事業者の増加ならびに制度の発展も期待される。

SAS スクリーニング推進のための情報発信・提供については、シンポジウム、講演会、報告会、アンケート調査を合計 11 回行い、多数の事業者からの参加があり、大きな反響があった。SAS スクリーニングの評価のノウハウ活用の整備についても、SAS スクリーニング検査を実施した結果から得られた知見をまとめ、報告会などで公表するとともに、啓蒙用 DVD に成功例をまとめた。今後さらに多くの事業者への展開が期待される。SAS スクリーニングに参加したバス事業者が SAS スクリーニングの実施から精密検査・受療までの重要性を認識した意義は大きい。当初目標に掲げていた日本バス協会に加盟していない事業者なども含めた社会的な波及にまでには至っておらず、定着と今後の他地域への展開には一層の努力と工夫が必要であるが、今後の普及が大いに期待される。

2. 各項目評価

(ア)目標の達成状況

概ね達成されたと評価する。

各都道府県バス協会が主体となり、支援期間の 3 年間で、10 都府県、222 社、4443 名に対して SAS スクリーニング検査を実施し、多くの潜在的 SAS 対象者を発見することができ、バス事故の未然防止に役に立ったと思われる。啓発用の DVD も作成した。精密検査、受療までの体系化したシステムが一部の企業は構築されたが、日本バス協会全体への普及はこれからであり、また、バス事業者の自主的な取り組みとしての徹底が難しいという問題点は残っている。日本バス協会全体への普及、さらには日本バス協会

に加盟していない事業者への普及に向けた今後の実装活動に期待する。

(イ)実装支援期間終了後の実装の継続及び発展の可能性

大いに可能性ありと評価する。

4,000名強のSASスクリーニング検査受診者の特徴や状況の把握がなされ、成功例をまとめた啓発用媒体(DVD)を作成した意義は大きい。DVD配布、シンポジウム開催、情報公開等による啓発活動が継続され、未実施の都道府県への働きかけにより、今後の継続、発展の可能性は大いにある。

(ウ)組織体制は適正であったか

適正であったと評価する。

バス事業者はじめ多くの業界関係者を巻き込んで円滑な実装活動を行ったことから、組織体制は適正であったと判断できる。

3. その他特記事項

シンポジウムや報告会には多くの事業者が集まり、本プロジェクトの関心の高さが窺われた。一層の普及・啓発のために幅広くPRを行い、公的認定を獲得して普及につながるような努力を継続して欲しい。

以上

<別紙：評価者一覧>

	氏名	所属・役職
プログラム 総括	富浦 梓	元 東京工業大学 監事
プログラム アドバイザー	川北 秀人	人と組織と地球のための国際研究所 代表者
	澤田 澄子	元 キヤノン株式会社 CSR推進部長
	鈴木 浩	日本経済大学 大学院経営学研究科 教授／メタエンジニアリング研究所 所長
	塚本 修	一般財団法人 石炭エネルギーセンター 理事長／東京理科大学 特任教授
	西嶋 美那子	産業カウンセラー
	西村 吉雄	フリーランス技術ジャーナリスト
	前田 裕子	株式会社ブリヂストン 執行役員 環境担当
	善本 哲夫	立命館大学 経営学部 副学部長／教授
	渡辺 多恵子	日本保健医療大学 保健医療学部 准教授